

*県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト

社会基盤の 復旧・復興を目指して

県では、平成25年度を「復興加速化の年」として、復興計画に掲げた12の重点プロジェクトを中心に復旧・復興に取り組んでいます。

その一つ、「県土連携軸・交流ネットワーク基盤強化プロジェクト」について、社会生活や経済活動の基盤となる道路や港湾などの復旧を中心に紹介します。



相馬港の被災状況(下)と復旧後(右)



道路や港湾の復旧などを中心に紹介します。



葉ノ木平被災状況(下)と復旧後(上)

知事 メッセージ

「新生ふくしま」の礎

福島県知事 佐藤雄平



東日本大震災から二年余り。今年度は、復興を加速させ、被災者の皆さんの生活再建やふるさとへの帰還を促進していく年にしていきます。

そのためには、住宅の確保を始めとする社会基盤の復旧・復興が重要です。災害直後から仮設住宅の建設や道路・下水道など私たちの生活を支えるインフラの迅速な復旧に全力を挙げてまいりました。

今後も、単なる復旧にとどめることなく、復興公営住宅の整備を着実に進め、より安全で、産業の振興や交流人口の拡大につながる基盤の整備を強化し、将来を見据えた災害に強いまちづくりを推進します。

県民の皆さんと力を合わせ、安全・安心に支えられた、活力ある「新生ふくしま」の礎をしっかりと築いてまいります。

インフラの復旧

東日本大震災、新潟・福島豪雨、台風15号からの復旧に当たって、災害直後から、物資輸送や緊急車両の通行の確保を最優先に復旧を行ってきました。東日本大震災、新潟・福島豪雨については平成27年、台風15号については平成26年までの復旧完了を目指していきます。

国道252号 二本木橋 (豪雨災害)

平成23年12月20日に仮橋（金山町大塩先）が開通しました。

さらに昨年4月から、新二本木橋（仮称）の橋げたを新たに架ける工事に着手しており、今年度の工事完了を目指しています。

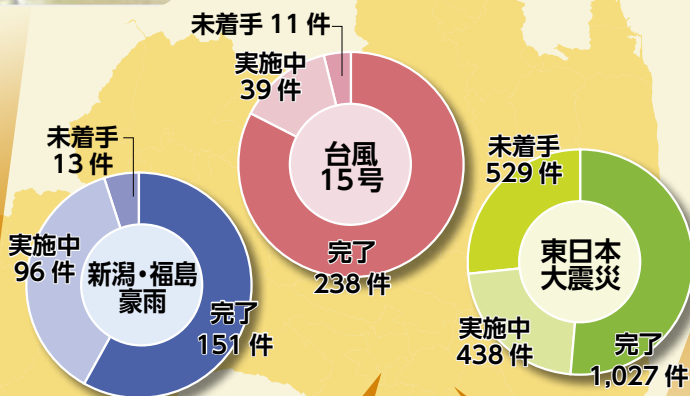


新設中



災害復旧工事進捗状況

(平成25年3月31日現在)



県内各地のいろいろな分野で復旧が行われているんだね。



復旧後 (片側通行)

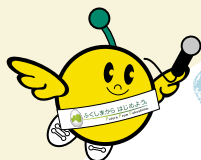


白河羽鳥線

切土工事完了
山側法面工事完了

崩落した土砂（ダンプトラック8,600台分）撤去が終了、現在は片側交互通行を行っています。

今後は、今年7月下旬までの復旧工事完了を目指しています。



県民の声

「利便性と通行の安全」の早期回復に感謝

いわき市田人町石住区長 大竹保男さん

通勤通学や日常生活になくはないこの道路は、震災で甚大な被害を受けました。普段なら10分で行けたところが1時間もかかる状況が続きましたが、昼夜を徹した工事によって約5ヶ月で迂回路を作ってもらい、余震が続く中、不安な道路通行が続いていたのが解消され、本当に地区民全員が心から喜んでます。昨年12月には再開通しましたが、今後もより安全で便利な道路となることを期待します。

復旧後



小名浜港

今年度中に全ての港湾施設の復旧を目指しており、今年6月に5号埠頭第1号岸壁の復旧が完了予定で、これにより小名浜港の主要な岸壁が全て利用可能となります。

現在、小名浜港の取り扱い貨物量は、震災以前の貨物量を上回っています。国際物流拠点として今後もさらに機能強化を図っていきます。



復旧後

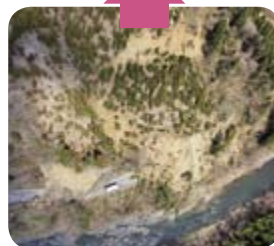


いわき石川線 才鉢工区

法面補強工事完了
本線舗装工事完了

平成23年4月11日の余震で斜面が崩落しました。ダンプトラック8,400台分の土砂の撤去と斜面の補強工事が終了。

昨年12月14日に住民の方々などが出席して再開通式を行いました。早期に再開通できたことで地元の皆さんにも大変喜んでいただいています。



今年度は
どんな事業が
行われるのかな。



これから行われる主要な事業 —平成 25 年度以降の事業—



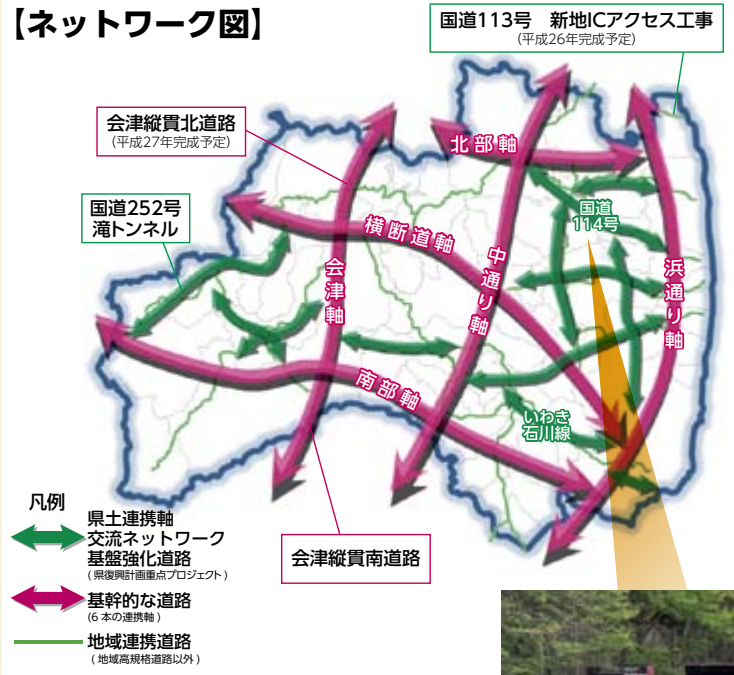
(イメージ写真)

- 平成 25 年度の事業内容**
- 町村の代行での整備 5000 戸
 - 県営の復興公営住宅
 - 5000 戸建設
 - いわき市 2500 戸、郡山市 1600 戸、会津若松 90 戸
 - 10000 戸分の用地取得や造成、測量など

原子力災害による避難者のため、復興公営住宅の整備を行います。また、県営のほか、町村からの要請に応じて、県が町村の復興公営住宅を代行して整備します。整備が完了した住宅から、平成 26 年度以降、順次入居開始の予定です。

復興公営住宅について

【ネットワーク図】



本県の今後の道路整備のあり方を示した道づくりプランについて、さらに復興の加速化を図るための見直しを行いました。

この「ふくしまみちづくりプラン（復興計画対応版）」に基づき、災害に強い道路ネットワークの強化と被災地の一日も早い復旧・復興に向けて、縦・横 6 本の連携軸とともに、浜通り、中通り、会津を結び交流ネットワークの基盤となる東西を連携する道路の整備に全力で取り組んでいきます。

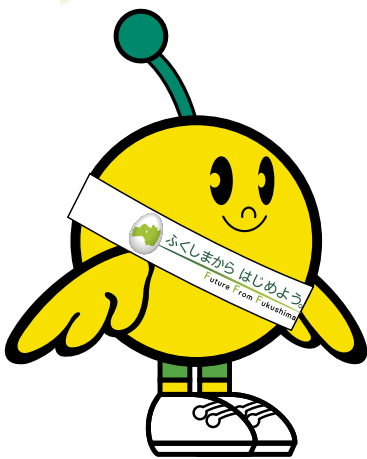
道路ネットワークについて



国道 114 号小綱木バイパス

今年 4 月 24 日に川俣町小綱木バイパス第 1 工区（川俣町小綱木）が開通しました。

この道路は「ふくしま復興再生道路」と位置づけされており、避難解除区域等の復興を支援するため、引き続き第 2 工区の整備を進めています。



インフラの整備は社会生活の基本。復興に向けて、まずは災害からの復旧にいろいろ取り組んできたんだね。日ごろは見えにくいところで補修工事なども行われているんだよ。これからは復旧から復興へ、より暮らしやすく災害に強い県づくりを目指すんだね。